**ハンドマイク街頭演説原稿例　　横浜市長選勝利・コロナから命守れ**

二〇二一年八月二十三日　日本共産党埼玉県委員会・作成

ご近所のみなさん、こんにちは。日本共産党です。本日はこの場所をお借りして、日本共産党の政策を訴えさせていただきます。しばらくの間ご協力をお願いいたします。

みなさん、先日の横浜市長選挙では、日本共産党も支援した市民と野党の共同候補の山中竹春氏が、横浜市を地盤とする菅首相はじめ自民党・公明党が全力で支援した小此木候補らを大差で破り初当選しました。カジノ誘致反対の市民の意思を示すとともに、菅政権のコロナ対応に厳しい審判となりました。今回の選挙でも、市民と野党の共闘の力が大きく発揮されました。日本共産党は、来る総選挙でも市民と野党の共闘の力で菅自公政権を倒すため全力をあげます。みなさんの大きなご支援をよろしくお願いします。

　さて、みなさん、新規感染者は増え続け、まさに感染爆発ともいうべき広がりです。全国では２万人超、都内では５０００人前後の新規感染者が連日うまれています。埼玉県でも、新規感染者が２０００人を超え過去最多を記録し、自宅療養者は２万人以上となってます。県内の病院でも、コロナ患者の入院受け入れが困難になり、すでに医療崩壊とも言うべき状況です。

　このような中、日本共産党は、国民の命を守ることを最優先に３点にしぼって菅首相に緊急提案しました。一つは、症状に応じて必要な医療をすべての患者に提供することです。そのために、まず「原則自宅療養」の政府方針を完全に撤回する。そのうえで、限られた医療資源を最も効率的に活用するために、医療機能を強化した宿泊療養施設や、臨時の医療施設などを、大規模に増設・確保することを強く求めます。あわせて、コロナ入院病床をさらに確保しながら、訪問看護などの在宅患者への往診や訪問看護などを支える体制を抜本的に強化することを求めています。その実現のために、政府があらゆる力を投入し、責任もって医師・看護師を確保すべきです。さらに、すべての医療機関を対象にした減収ほてんと財政支援、コロナに関わるすべての医療従事者への待遇改善を早急に実施するようあらためて求めます。二つは、感染伝播の鎖を断つために感染拡大が見られる事業所や、学校、保育園、学童保育で大規模検査を政府が主導的に実行することを強く求めます。三つは、国民に誤ったメッセージとなった五輪開催を反省し、パラリンピックの中止をただちに決断すること、まずは観戦爆発のもとでの学校連携観戦をただちに中止すべきです。

　みなさん、いま、菅自公政権に求められていることは、野党が憲法にもとづき要求している臨時国会をただちに開くことではないでしょうか。臨時国会では、日本共産党は、科学を無視し、国民への説明を果たさず、コロナ対応にまで「自己責任論」を持ち込んだ、この一年あまりの安倍・菅政権のコロナ対応の誤りを大本から転換するために厳しく追及していきます。総選挙では、政権担当能力を失っている菅自公政権を何としても変えようではありませんか。比例代表では、日本共産党をぜひ大きく伸ばしてください。みなさまのお力添えを心から訴えます。よろしくお願いします。

　最後に、いま話題の政治バラエティ映画・「パンケーキを毒見する」にも登場する「しんぶん赤旗」を、この機会にぜひご購読いただきますようお願いしまして、この場所をお借りしての日本共産党の政策の訴えを終わります。ご協力ありがとうございました。（了）